

JWF ファンド 2014 フォローアップ報告書

2016 年 8 月

特定非営利活動法人日本水フォーラム



目次

1. JWF ファンドとは
2. フォローアップ活動報告

「JWF ファンド 2014 フォローアップ報告書」(本紙)の記事および写真などの著作権は日本水フォーラムまたは、その情報提供者に帰属します。無断転載等はお断りします。

連絡先

特定非営利活動法人日本水フォーラム

jwffund@waterforum.jp

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 5-4 アライズ第2ビル6階

TEL: 03-5645-8040

FAX: 03-5645-8041

1. JWF ファンドとは

1) JWF ファンド概要

JWF ファンドは、草の根レベルで水問題の解決に取り組む団体を支援するために 2005 年に設立されました。この活動は、日本水フォーラムの会員の皆様からの会費や Charity for Water に寄せられた寄付等で行われています。

1 プロジェクトあたりの支援金額の上限を 1,000US ドルとすること、草の根活動を実施している現地団体の活動を支援すること、現地に適した技術と方法を用いて実施することを基本原則としています。

過去 11 年間で 150 件のプロジェクトが実施され、アジア太平洋、アフリカ、中央アメリカ、南アメリカでの受益者数は 189,900 名を越えました。

- ◆ 支援件数：150 件
- ◆ 総支援額：148,577 US ドル
- ◆ 総受益者数：189,953 人
- ◆ 水供給設備数：453 基
- ◆ 衛生設備数：388 基
- ◆ 啓発活動数：372 回

(2016 年 5 月 30 日現在)

2) フォローアップとは

JWF ファンドは、現場の課題やニーズに効率的かつ効果的に応えることを念頭に活動しています。本年は 2015 年 5 月に完了した活動を対象に、現地団体の協力によりフォローアップを実施し、活動終了から一年後に課題やニーズにどのような変化が見られたか、効果や影響に関する情報を収集いたしました。

フォローアップ一年目の 2014 年度の活動では、2 件の現地団体から回答を得ることができ、一年が経過した現場の状況を知ることができました。

現場からの報告は、草の根活動が地味ながらも着実に人びとの生活の改善に寄与していること、そして水と衛生というテーマがその改善に大きく関わっていることを示しています。国や地域を越えて普く適用可能な方程式や無限に利用可能な資金がないからこそ、人びとに寄添った活動計画や現場担当者の先導、ドナーとのよりよいコミュニケーション等の小さな努力の積み重ねが重要です。

フォローアップの結果が、水問題の解決に取り組む団体や人びとにとって、明るい未来を想像し、活動するためのヒントになることに繋がれば幸いです。

2. フォローアップについて

JWF ファンド 2014 では、バングラデシュ、ネパール、インド、パキスタン、カメルーン、トーゴ、スーダン、タンザニアより、計 11 件のプロジェクトを支援しました。

日本水フォーラムの要求に応じ、Charite Chretienne pour Personnes en Detresse (CCPD、トーゴ) と St Vincent de Paul-Limbe (カメルーン) がそれぞれ実施したプロジェクトのフォローアップを行いました。

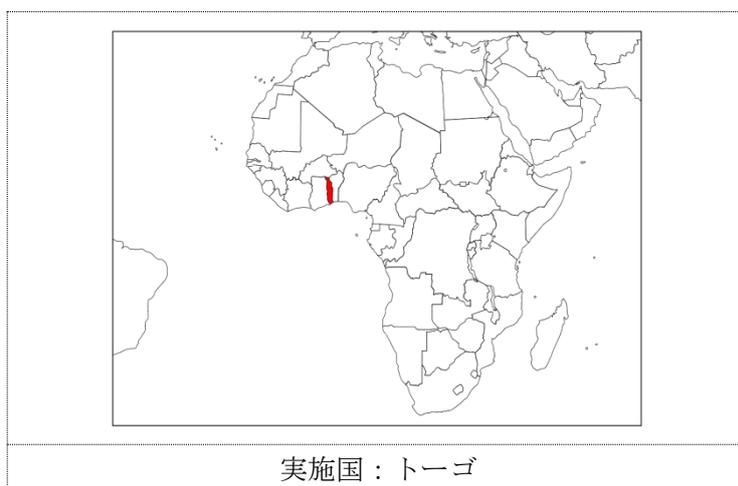
以下は、2014 年に実施したプロジェクト、2016 年に行ったフォローアップ活動の報告です。

1) Charite Chretienne pour Personnes en Detresse (CCPD) (トーゴ)

ツィメレコフェ地域での井戸・衛生施設の建設と衛生啓発活動 (#T1-024)

(1) 2014 年度実施プロジェクト

- 実施団体：Charite Chretienne pour Personnes en Detresse (CCPD)
- 実施国、地域：トーゴ、パリメ
- 実施期間：2014 年 12 月～2015 年 5 月
- 受益者数：直接受益者数 250 人、間接受益者数 280 人
- 費用：1,219 USD (JWF ファンドより 1,000 ドル、受益者の負担 219 ドル)
- 報告者：Mr. Yawo Agbeko Tsevi (CCPD)



背景

ツィメレコフェでは、きれいな水へのアクセスと排泄物の安全な処理が重大な問題となっている。人びとは不衛生な水や排泄物によって常に病気がちである。人びとは池の水を飲み水や料理に使用しているが、池の水は汚染されていて病気発生の温床となっている。住民たちが草むらに野外排泄をしないよう衛生設備を設置することができれば、非衛生的な

環境によって住民たちが病気になることを防ぐことができる。

住民たち、特に女性や子どもは、汚染された水源の使用やきれいな水の不足、衛生施設が乏しいことにより、コレラや赤痢、下痢症、回虫、熱帯病などの病気にかかりやすく、特にこの地域では、子どもの罹患率と死亡率が高い。これらの病気は、きれいな水と排泄物の安全な処理、衛生管理によって防ぐことができる。

プロジェクト内容

- ◆ **設備の建設**：きれいな水と安全な排泄物処理のため、井戸とエコサントイレをそれぞれ一基ずつ導入した。住民たちが使用する前に、クロト県の水衛生局が井戸水の水質検査を実施し、飲用に適している事が確認された。また、エコサントイレは近隣の約10世帯がエコサントイレを使用している。
- ◆ **水と衛生に関するワークショップ**：ツイメレコフェの住民たちは、水と衛生に関する良い習慣を学び、手洗いを実践し、野外排泄をしなくなり、池の水を飲まなくなるなどを良い習慣として実行している。ワークショップの間、7名の健康促進員が地域の啓発活動の方法と良い衛生習慣に関するトレーニングを受けた。
- ◆ **水と衛生に関するプログラム**：プログラムを通じ、地域開発委員会が設立され、7名がメンバーとして選ばれた。このメンバーたちは、水と衛生システムの維持管理と資金管理の方法に関するトレーニングを受けた。
- ◆ **地域の建設作業職人のトレーニング**：3名の建設作業職人が井戸とエコサントイレの建設技術を学んだ。

成果：

- ◆ 井戸1基、エコサントイレ1基を導入した。
- ◆ 水と衛生に関するワークショップを3回、啓発活動を3回行った。
- ◆ 250名（女性120名、男性30名、子ども100名）がきれいな水と安全な衛生設備を使用できるようになり、健康や手洗いについて意識するようになった。
- ◆ 3名の建設作業職人が井戸とエコサントイレを建設できるようになった。
- ◆ 7名の健康促進員が良い健康習慣について学び、地域に伝えている。
- ◆ 地域開発委員会が設立され、7名のメンバーが維持管理と資金管理について学んだ。

受益者からの声

- ◆ 井戸ができる前は、池の水を汲んでいました。私の子どもたちは下痢症と高熱に苦しんでおり、いつも村から18キロ離れた病院に行かなければなりませんでした。池の汚れた水が子どもたちの病気の原因だと知らなかったため、毎年たくさんのお金を治療費に費やしていました。CCPDがこのプロジェクトを開始し、きれいな水の大切さと健康への影響を知りました。村できれいな水を使用できるようになったおかげで、以前

のように頻繁に病院へ行く必要がなくなりました。JWF ファンドありがとう。CCPD の幸運を祈ります！（アフィヴィさん）

得られた教訓

ツィメレコフェのニーズ調査を行った際、CCPC は地域の住民と協議し、衛生設備の建設にかかる労働の賃金は支払えないと説明した。また、JWF ファンドでは衛生設備の建設に必要な砂やレンガ、水といった材料の購入費やそれらの運搬費用の提供がないことも伝えた。そこで、住民たちは地域の材料と運送費に必要な現金を負担した。住民たちは彼らの中でグループを組織し、互いに協力した。

7 世帯 85 人の住民がプロジェクト完了後、インタビューに答えた。そのうち 98%が衛生設備の導入や、地域開発委員会の役割にとっても満足していると答えた。井戸に関して、住民たちの多くは 500 メートルほど離れており、井戸自体にアクセス出来ないにも関わらず、井戸の水質に満足していた。ツィメレコフェに住む全世帯の水汲みにかかる距離と時間の削減ときれいな水へのアクセスの改善のためには更に井戸が必要である。

また、住民たちはエコサントイレにも満足している。特に女性たちはトイレが使用できることで身の安全を感じ、維持管理も容易であると感じている。しかし、ツィメレコフェには更にトイレが必要である。安全なトイレを使用出来なければ、病気の減少に至らない。このプロジェクトを通じ、地域住民たちは CCPD と協力することで資金調達の方法を学び、水と衛生に関する能力を向上できたことに満足している。

写真



プロジェクト実施前
住民が池から水を汲んでいる様子



井戸掘削の様子



井戸を建設する住民ボランティア



プロジェクト実施後
完成した井戸と住民たち



プロジェクト実施前
衛生設備の様子



エコサントイレの基礎部分建設



エコサントイレの使用方の説明



プロジェクト実施後
完成したエコサントイレ



水と衛生に関するプログラムの様子

(2) 2016 年度フォローアップ活動

フォローアップ訪問日は、2016 年 4 月 10 日 Mr. Yawo Agbeko Tsevi により実施

➤ 井戸

32 世帯 250 名以上の住民たちが、プロジェクトによって井戸の水を飲み水や洗濯、料理に使用している。CCPD が地域の水と衛生のニーズ調査を行った際、住民たちは、この井戸は安全な水源として認識しており、正しく機能していた。また、維持管理が簡単なこともあり利用者たちはマナーを守って適切に維持管理していた。

子どもたちは井戸の水をきれいに保ち安全に使えるよう、井戸の中に木の枝や石などを投げ入れないように指導されていた。プロジェクトにより、住民たちは安全な水源から安全な水を汲むことで幸せを感じ、将来の健康を手にした。

受益者の声

- ◆ プロジェクトが実施されるまで、家族のために遠く離れた池まで歩いて飲み水を汲みに行っていました。池の水はしばしば飲み水として安全ではありませんでした。プロジェクトのおかげで、井戸の水は飲んでも安全で家族全員が健康で幸せです。畑で働く夫に食事と飲み水を届けると、彼はよく私に「どこでこの水を汲んできたの？」と尋ねます。もし以前の池や他の井戸から汲んだ水だと、彼はその水を飲もうともしません。今ではいつでも井戸から安全な水を汲めるので、畑に行く途中にある池の安全ではない水を汲む必要がなくなりました。(ジャンティーユさん)
- ◆ 以前は、毎日夜中に起きて池の水を汲みに行っており、疲れていました。しかし、今では簡単に井戸から水を汲むことができます。何の心配をすることもなく、誰もがいつでも安全な水を得られます。他のことに使える時間が増えました。(ヤイラさん)

➤ エコサントイレ

エコサントイレは適切に維持管理されている。10 世帯以上がこのトイレを使用している。プロジェクト設計の際、CCPD はこの地域に適切なタイプのトイレを特定するため、地域の水と衛生のニーズ調査を行った。その結果、住民たちはとても安価で維持管理がしやすく、し尿を肥料として使えるため、エコサントイレの建設に賛成した。住民たちはその肥料にも満足している。

受益者からの声

- ◆ 野外排泄と違って臭いがせずハエが周りに飛んでいないので、私はこのトイレが好きです。水と衛生のワークショップを通じ、ハエが病気を広げることを学びました。私は家族に病気にかからないために野外排泄を止め、いつもトイレを使用するよう勧めました。(コッシワさん)
- ◆ エコサントイレは快適です。使いやすく、安全だからです。プロジェクト前、野外で排泄する時はいつも、私を守るために夫が林まで付いて来なければなりませんでした。今ではし尿を肥料として使えると知り、トイレに行くことが楽しみです。(ジャンティーユさん)

➤ し尿

これまで 500 リットル以上の尿が集められ、野菜育成のために肥料として使われた。し尿タンクが初めて満杯になった時、肥料として使うために乾燥させた。CCPD がフォローアップで訪問した際に、8人の女性グループがこの肥料をほうれん草栽培に使用している農園に案内してくれた。彼女たちによると、8世帯の家族全員が乾季の間でも野菜を得ることができた。農園には、十分な量のほうれん草が栽培されていて、葉がとても大きくて色も良く、栄養があるので皆好んでいる。

➤ 地域開発委員会

最近の活動は行っていないが、道路と池を繋ぐ活動を計画している。

受益者の声

- ◆ 水と衛生のワークショップで、私は誕生日の歌に合わせながら正しく手を洗う方法を教わりました。ある時、私の教会で人々に手洗いについて教える機会がありました。私の子どもたちは歌に乗せて手を洗うことが気に入り、トイレに行く際には水を持って行くようになりました。(コッフイさん)
- ◆ 私の家族は皆、トイレの後だけでなく、食事の前や外出から帰ってきた後にも手洗いをしています。(アンジェルさん)

➤ 建設作業職人

3人の建設作業職人たちは、水と衛生設備の建設に必要な技術を習得した。

➤ 関係機関

CCPD は技術的な監視や水質検査を行っているクロト県の水衛生局と良い関係性を保っている。

得られた教訓

このプロジェクトは、6 か月間（2015 年 11 月から 2016 年 4 月）の間、たくさんの人びとに多大な影響を与えた。11 月から 3 月の間、この井戸以外の水源が干上がってしまった際には、遠くからも人々が水を汲みに来た。

水と衛生に関する活動は、パリメ周辺やそれ以外の地域に広める必要がある。

CCPD は支援を求める人数や地域の数を通じて活動の効果測定を行っており、その数は増え続けている。CCPD は更に多くの衛生設備を貧しい地域に導入する必要があると考える。CCPD はドナーからの継続した資金援助を求めている。我々はすべての子どもたちが安全な水を得られるまで活動を続けていく。

写真



2014 年に建設された井戸



井戸と住民たち



2014 年に建設されたエコサントイレ



エコサントイレと建設作業職人



エコサントイレに集まる住民たち



村を訪問したプロジェクト・マネージャー



畑でほうれん草を栽培する女性たち



エコサントイレの肥料で育つほうれん草

2) St Vincent de Paul-Limbe (カメルーン)

モウォ村に住む貧困者と障害者の健康と衛生改向上活動 (#T1-029)

(1) 2014 年度実施プロジェクト

- 実施団体 : St Vincent de Paul-Limbe
- 実施国・地域 : カメルーン、リンベ
- 実施期間 : 2014 年 12 月～2015 年 5 月
- 受益者数 : 5,400 人 (貧困者 400 人、住民 5,000 人)
- 費用 : 1,186 USD (JWF ファンドより 1,000 ドル、受益者の負担 186 ドル)
- 報告者 : Mr. Late Cletus Yuh Keji (St Vincent de Paul-Limbe)



背景

モウォ村はカメルーン南西州にあるリンベ市の中でも遠隔地にあり、孤立した人口過密の村である。人口は約 15,000 人、そのうち 70%は高齢で、極度の貧困に苦しんでいる。住民たちは交通網や安全な飲み水や衛生設備といった基本的な社会基盤の不足に悩まされている。唯一の飲み水水源は村の中心を流れるンドンゴ川であるが、近隣の住民たちによる洗濯や沐浴、上流での排泄等によってひどく汚れており、継続的に健康を害する原因となっている。住民たちの安全な飲み水や適切な衛生習慣に関する知識と理解の不足や衛生設備の建設費用の不足が重なり、2010 年の壊滅的なコレラの大流行に大きく影響した。これにより 32 人が亡くなり、そのうち 25 人は貧困者だった。女性たちは、川の水での体を洗ったり、村の唯一使用できるトイレを使用したりすると体が痒くなると訴えている。

プロジェクト内容

- ◆ **バイオガストイレ1基建設**：建設作業の初めに特別委員会が設立され、5名（実施団体より2名、モウオ村議会より3名）のメンバーがプロジェクトを通じ、またその後も、活動の監視と評価を行うことが合意された。
バイオガストイレにはセメント製れんがで出来た個室2つと、縦3メートル、横2メートル、深さ3メートルの汚水タンクが備わっている。バイオガスシステムは、貧困者に供給するバイオガスを生成するため、トイレに設置された。
- ◆ **深井戸1基建設**：15メートルの穴が熟練職人たちにより掘削された。建設した深井戸には電動ポンプを備え付け、井戸の近くに設置した貯水タンクに接続した。これにより、障害を持つ人々や貧困者たちが簡単に深井戸の水を得られるようになった。
- ◆ **保健衛生に関するワンデーセミナーの開催**：モウオ村における現在の水と衛生に関する問題、水と衛生に関する知識と習慣の啓発のため、ワンデーセミナーを開催した。リンベ市議会保健衛生局より2名の専門家を講師として招いた。セミナーの中で、4人の住民が管理人として選ばれトレーニングを受けた。更に、リンベ市議会はプロジェクトで建設した衛生設備の管理費用として、最小限の予算を割り当てることに合意した。

成果

- ◆ バイオガストイレ1基、深井戸1基を導入した。
- ◆ 5名のメンバーから成る特別委員会が設立された。
- ◆ 4名の管理者たちが、水と衛生に関する知識と習慣について学んだ。
- ◆ リンベ市議会がプロジェクト後も建設した衛生設備の継続的な維持管理に関してモウオ村に協力することに合意した。
- ◆ 5,400人がきれいな水と安全な衛生設備を使用できるようになった。

得られた教訓

このプロジェクトはモウオ村で初めての試みだった。スタッフや住民たち、有権者、その他の関係者の密接な協力により、プロジェクトは効果的かつ円滑に実施することができた。たくさんの人びとが恩恵を受け、この地域の水と衛生の新たな局面に入った。すべての人々がプロジェクトの実施に満足している。必要性に基づいたプロジェクトは住民たちの積極的な参加を促すことが判明した。村の有権者やリーダーたちは、衛生と経済発展のために更なる深井戸とトイレ製造施設の導入を求めている。

写真



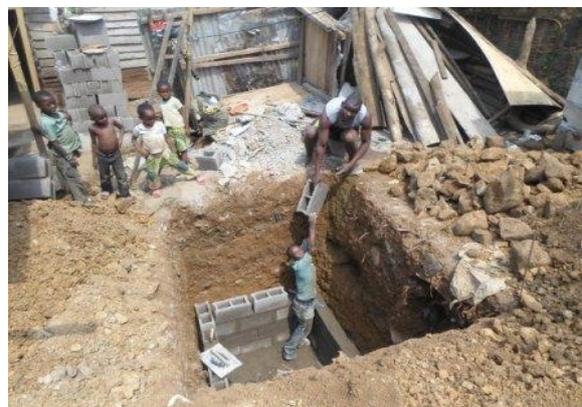
建設中の深井戸の様子



建設した深井戸と貯水タンク



プロジェクト前の衛生設備



汚水タンクを建設している様子



トイレの内装を整えている様子



バイオガスシステムと住民たち

(2) 2016 年度フォローアップ活動報告書

フォローアップ訪問は、2016 年 4 月 10 日 Ms. Sally Okie Ojah (St Vincent de Paul-Limbe) により実施

➤ バイオガストイレ

バイオガストイレの設計と建設はモウオ村に適しており、これまで大きな問題は発生していない。利用者の中でも、特に新しいトイレを必要としていた女性たちは安心して利用している。バイオガストイレの近隣に住む 75%の住民たちは特に良い衛生環境にある。しかし 65 世帯以上がバイオガストイレから遠く離れており、安全な衛生設備を使用出来ていない。

モウオ村議会がバイオガストイレの維持管理を担当しており、予算から必要な資金を割り当てている。メンテナンスはこれまで行っていないが、定期的にバイオガストイレの周りの草むしりをしている。バイオガストイレの維持管理に関しては、不適切に使用されている様子は見当たらなかった。バイオガストイレの維持管理を担当するモウオ村議会によると、管理人が割り当てたトイレの清掃当番を拒み、2 世帯が罰則を受けた。

受益者からの声

- ◆ 簡単にバイオガストイレを使えて、住民たちは共用のトイレに喜んでいます。住民たちの衛生習慣も良くなりました。(バー・ルーカスさん)
- ◆ トイレはとても使いやすいです。トイレの中に使用済の紙を入れるバケツがあり、すぐにタンクが一杯にならないようになっています。野外排泄はほとんど誰もしていません。(ベッセム・マリーさん)

➤ バイオガス

実施団体が引き続きバイオガスの収集を担当している。これまでバイオガスを 4 回集めたが、定期的に調理用として使用するには、メタンガスの量が足りないと分かった。しかし、将来的にバイオガストイレが本格的に稼働しメタンガスを生成できるようになれば、定期的にガスを集めて貧困者の為に使用できるようになると想定される。

➤ 深井戸

深井戸適切に設計され、維持管理がされているが、貯水タンクの設計が適していなかった。貯水タンクは、不適切な構造と崩壊の恐れにより取り壊された。更に、頻繁な電力不足により、井戸から水を汲む電動ポンプが稼働しなかった。これに対処するため、モウオ村議会は 60 センチ四方の小さな穴を井戸の蓋に開け、住民たちはロープを

括ったバケツで水が汲めるようになった。

受益者の声

- ◆ 井戸は使いやすく、人々の衛生環境は改善され、子どもたちは井戸の水を水浴びに使えるようになりました。(ペンダ・サミュエル)
- ◆ 井戸ができたことはとても良いですが、私を含めて全員が使えるわけではありません。数世帯は井戸から遠く離れています。ほとんどの場合、水を汲みに遠くの井戸まで歩いて行かなければならないので、数日分の飲み水を家に保管しています。(エリカ・ンゴ)
- ◆ 利用者のうち、数名は電気代の費用、貯水タンクの容量の小ささ、ポンプの盗難の懸念といった理由で電動ポンプを使用できないことに不満を漏らしている。(電動ポンプは井戸から 150 メートル離れたモウオ村議会議長の家に夜間は保管されている)

➤ 4名の管理人

モウオ村議会はフォローアップ活動の責任者として、パウロ・ンウェシ氏、グローリー・ビー氏、ベッセム・ンジョンゴ氏、アシスタントとしてヴィクター・ムベ氏を任命した。

➤ その他

フォローアップ訪問の際、サリー氏が村人たちにインタビューを行った。ムベ氏とヴィクトリア・キムベング氏はワンデーセミナーのことを今でも覚えていると語った。ワークショップのメッセージであった「健康な人生のための衛生習慣の重要性」は印象的だったとのこと。

2014 年のプロジェクト実施期間中、様々な関係者たちがプロジェクト成功のために関わった。プロジェクト後、彼らは常に St Vincent de Paul-Limbe の理事会や資金調達会議に出席しており、パートナーとなっている。

得られた教訓

地域住民や関係者を含めたプロジェクトの計画は非常に成功した。水に起因する病気への不満は減った。プロジェクトを計画する際、負の影響についても考慮しなければならない。例えば、建設した設備を使用できない多くの住民たちはやる気を失い、劣等感を抱く恐れがある。

写真



建設した井戸と住民たち



フォローアップ訪問中に行われた会議



モウオ村議会と St Vincent de Paul による会議